竜丘組合時報

第二號

昭和七年五月二十三日印刷
昭和七年五月二十五日發行
長野縣下伊那郡竜丘村三六八
發行人　岡村勝太郎
同縣同郡同村一六五
有限責任竜丘信用販賣購買利用組合
發行所
同縣同郡飯田町四五六ノ三
印刷所　研究社印刷部

蠶糸業は何處へ行く

世界中不景氣の渦に卷き込まれて糸値が毎年に下向に成て來た、好況時の生産費位迄落込んで來たので、誰も最う蠶飼は駄目だと思ふ樣に成つたのは無理はない。

近頃はどんなものでも景氣の良いものは一つもない、生糸の値下りがケタ外れ（昨年度に比し國際物價指數では生糸が格段下てはいない）には相違ないが。一時飛離れて高過ぎた爲今日になると狼狽するのだ。

下た原因は生産過剰、人絹進出、等は勿論だが株屋の思惑、事業家の失敗銀行の破産、等によつて一層拍車が罹つた爲だと思ふ。

併し一般業者の唱へる樣に最う駄目だ抔とは斷じてあるものでない、總ての事に榮枯盛衰はつき者だ、景氣不景氣は周期的に環る通り、需給の原則は動かす譯にはゆかない。

特に世界各國の資本經濟の政策は行詰て來たから、打開策に奔命して居る樣だ吾國でも仝じだと思ふ、特に輸出の大宗蠶糸に就ては必す國策を樹るに相違ない、最ふ駄目だと云ふ群衆心理は自然的に生産は調節される筈だ。

昔とは違て何物でも國際關係に支配せられるから、周期運行も短月日には行はれない、併し廻て來たが最後影響する處は甚だ大きい筈だ、御覽なさい、近年の大不況さを、昔は稼ぐに追付貧亡なしと曰はれたが、近頃では稼ぐ程働く程貧亡になると曰ふ程、不況が深酷に社會を陷れて居るではないか、若しも此反對に好景氣が廻て來たならば札束を見るのも嫌になる位になるだらふ。

串談は偖置本村などは蠶業が本業だから飽く迄踏み止つて奮闘を續け、終りの五分間一陽來復迄戰ひ拔く覺悟が必要だ、どん底へ落込んだ者は最早下る餘地はない、上るより仕方はないではないか。

今は力瘤を入れる處だ。緊褌一番奮起を促して置く。

興廢此一戰にあり

組合製糸は組合員の死活に影響する組合製糸の使命は事業の成績である、而て事業の成績は産繭の良否、製糸指導及技術の巧拙、販賣方面其他經營の適否、工場施設の完否等固より大なる關係はあるが、根本問題は供繭數量の充實と否とにある事を忘れてはならない。

果して供繭は充實し品位亦隨て良好工場管理行屆き各部門の技術優秀、萬般の設備は完備し販賣上の掛引頗る巧妙ならば、不良の成績は斷じて無い。

飜て吾養蠶界はと見ると、斯業不遇は累をなして本年抔は一昨年比二割五分減を豫想され居る、營業製糸は仕入に自由が利くし義務制限供繭の組合亦何とでもなる、本組合は全部供繭ではないか收繭量が何割減と曰へばそれだけ間違なく減じて來る何とも融通の附け樣はあるまい、濟まされぬのは忽ち事業の成績に響いて來るからたまらない。

春蠶掃立は慥に減少したでせうが、一面桑の繁茂はメキ〳〵良くなつて來た。糸値は未だに甚だ安いが今飼ふ春蠶の糸はまだ賣るのではない、糸が出來る時分後悔しても追付まい、掃立は少くても其積になつたら反てうまく行くだらふ、糸値が安ければ安いだけ緊張しなくてはなるまい。

死活の別れ目だ……終りの五分間だ……興廢は此一戰にある。

昭和七年春肥共同購入表

部落別	數量	駄科	長野原	時又	桐林	上川路
品名	金額					
石灰窒素 仝	仝	一八四六袋	一四七	一九〇	一〇三	三五一
		三、三三〇円三七	一八六、九七	二三九、五四	一、二九一四〇	四三九、〇三
硫安 仝	仝	一、九一〇〆	一、五四〇	一、二五〇	二、四一〇	三九〇
		五三〇円一九	四三一、九六	二四〇、〇〇	六六〇、〇六	一〇六、三八
豐年 仝	仝	一五一叺	二三四	一	五三三	三四六
		三五四円三〇	三三、五六	二、三四	一、三三八、六〇	五七〇、四七
豆板 仝	仝	三五九枚	一一	八	二六一	二四五
		五三五円七三	一六、一五	一一、七三	三八二、九九	一七、五八
過燐酸 仝	仝	六五叺	一二五	二	二八	一四四
		一〇八円五五	二〇一、二五	三、三二	四五、〇八	三八、六四
其他 ◁▽			四、〇二		五〇、四〇	八、四〇
金額計		三、九七〇円四六	一、一八三、九八	五九六、八二	三、六六八、五三	一、一八〇、五二

部落別	數量	駄科	上野原	鶴川	小倉	上野原
品名	金額					
石灰窒素 仝	仝	一八四六袋	一四七	一九〇	一〇三	三五一
		三、三三〇円三七	一八六、九七	二三九、五四	一、二九一四〇	四三九、〇三
硫安 仝	仝	一、九一〇〆	一、五四〇	一、二五〇	二、四一〇	三九〇
		五三〇円一九	四三一、九六	二四〇、〇〇	六六〇、〇六	一〇六、三八
豐年 仝	仝	一五一叺	二三四	一	五三三	三四六
		三五四円三〇	三三、五六	二、三四	一、三三八、六〇	五七〇、四七
豆板 仝	仝	三五九枚	一一	八	二六一	二四五
		五三五円七三	一六、一五	一一、七三	三八二、九九	一七、五八
過燐酸 仝	仝	六五叺	一二五	二	二八	一四四
		一〇八円五五	二〇一、二五	三、三二	四五、〇八	三八、六四
其他 ◁▽			四、〇二		五〇、四〇	八、四〇
金額計		三、九七〇円四六	一、一八三、九八	五九六、八二	三、六六八、五三	一、一八〇、五二

此以外個人購入は金額に積り約三千圓餘ある見込である

六年度假配分

四月廿八日最後の假配分をした丁度春白三十掛、仝黄二十七掛、夏秋二十八掛に成つて居る、實は其當時は糸價六百五十圓の豫定で殘金決算配分も出來る積りのが、あの通り低落の爲以上の假配分が本配分に成つて仕舞た。

乍併假渡利子を附けないのと各種の奬勵金を多額に支出した間接配分を合算すると、三期平均三十掛弱になる勘定だ。

更に春口挽糸量白十一掛八分五厘、黄十一掛九分六厘、夏秋平均十一掛であるから、生繭一〆目に換算すると、六年度としては悪ひ方ではないと考へる。

生繭賣買時價に對照比較すると頗る利益になる勘定である。

桑園肥料の配給

累年に渉り糸價暴落の爲桑園は漸次荒廢に傾き、延て産繭の數量品位にも影響甚だ大なるものあるに鑒み、知ての通り昨年夏肥として配合肥料其他、金額として七千五百圓許共同購入の方法に依り配給した、其反應は決して鮮少でなかつた樣だ、原料改善實行組合の活勤と相待て、郡下平均一昨年比一割五分減産なりし中に一割減に止まりたるのみでなく、産繭品位も頗る良好であつた樣だ、本年も春肥を大部分購聯に依て購入配給した。

其品名數量金額を部落別に表し報導する事にする。

原料改善規定

【1】指定品種

春白、歐十七×支一〇五、外に試驗として【歐十八×支一〇六】を加ふ

春黄、歐九×正白。歐十六×支一〇五。歐九×日一。【次年度廢棄の見込】

夏。秋。日一一〇×支一〇五。外に秋には平和×安泰を加ふ。

【2】指定蠶種奬勵規定

一、指定蠶種家よりの指定品種には三期共一瓦金貳錢指定以外の蠶種家よりの分は半額【但郡内に限る】

二、種代の立替は指定蠶種家に限る

【3】實行組合の成績調査

受入各口毎に二百分の一宛採集し乾燥後繰糸迄を細密に調査し採点をなし一等九十点以上二等七十五点以上三等六十点以上以下等外に區分し左の表彰金を附す。

一等八圓。二等五圓。三等三圓。

其外一組合各期毎に統制活動費として金貳圓宛支給す。

但し一組合は二十名を單位とす。

【4】解舒奬勵方法

生糸十匁繰糸時間を調査し一等配分一掛を增し、二等增減なく、三等は半掛を減す、標準時間左の通り

▲一等

春十四中四十分以内廿一中三十分以内

夏　仝　五十五分仝　四十五分仝

秋　仝　五十分　仝　四十分仝

▲二等　なし

▲三等

春十四中五〇分以上廿一中四〇分以上

夏　仝　八十分　仝　七十分仝

秋　仝　七十六分仝　六十六分仝

口挽方法

春繭は供繭一口毎に百六十匁、夏秋は百匁宛採取する事。

但し春供繭五十貫、夏秋は三十貫迄一本とす、本人の希望に依れば甲乙二本とするを得。

◉指定蠶種家より購入卵量

七年度春蠶種　五七、二〇四瓦

養蠶の悲觀材料出盡し
伊那は養蠶專業地で立て
必ず途が開けるであらう

竜丘　岡村勝太郎（氏談）

これは竜丘組合岡村さんの談話であるが頑味すべき言葉である

石油や電氣になり切つたと思はれる世に、昔ながらの燈心の賣りがチヤンとあるから驚く、幾分なり賣れるから作るものがあるのであらうし、燈心作りも飯を食つて生きて居るに違いない世間は廣い、商賣は強いと考へられる蠶糸業も引合はねば新開地や副業地は止めてしまうであらう、そこで產額が減る、產額が減れば滯貨の重壓からも脫し得ることゝなる。

專業地は他に代るべき生業がないから最後まで、苦しければ苦しいだけに窮して通ずる工夫も行はれる。此意味に於いて長野縣の如きは蠶業國として最後まで殘るであらうし、伊那郡の如きは特にそうである。

誰が何と云つても蠶でやつて行かねばならず、又必ずやつて行けることになるであらうから徒らに悲觀し、消極に墮せず、二圓五十錢よろしい、二圓だ、オーライと云ふ意氣込みで安價生產の工夫をせねばならぬ。

長くて一二年の辛棒であらう。世界各國も經濟復興に努めて居るし、日本でも蠶糸業統制國家的機關と云ふやうなものを目論見つゝあり中央會では全世界に向つて新販路の開拓を試みやうともして居る。だん〳〵道も開けやう『夜中が過ぎれば曉が近くなるものである』と

誠に味のある言葉である。泣いても笑つても蠶を飼はねばならず、蠶を飼つて窮乏の道を歩かねばならぬとしたら鼻唄でも唄いながら通る元氣を出すべきである。

糸聯の是非

T　O　生

糸聯がいゝだらう、よくないだらうと云ふ。又幾ら系統機關用の趣旨は結構でも實利を第一義として立つ組合である以上單獨販賣が有利であれば自分で賣らねばならぬと說くのである。至極御尤千萬である。

それは村に組合製糸が出來た、加盟したが得か、も少し成行きを見たが得かと云ふのと何等變るところがない。

吾等の說くのはその一歩先きの謂はば理想論である。村の人が集まつて養蠶家のために組合製糸を起すとなつたら當座の利害は暫く論外として組合に集まり、組合を成り立たせるのが理解ある村民の當然取るべき道ではないか糸聯の場合でもそれと何等變るところがない。

大差がないとすれば糸聯によるべきだし、安全さに於いて遙かに糸聯のすぐれて居ることが最近種々の出來事により一層明かに示されるやうになつて來た。

最後まで頑張つて來た下伊那に取つても今や糸聯出荷は大勢となり、郡民の常識となりつゝある、玆に於ても尙大勢に抗そうとするのはそれは無理を通そうとすることである。

糸聯は中央集權である。中央集權は官僚化である。

民情に暗い偉い人達が集つて先へ先へと途徹もない計劃ばかりたて農民の苦衷が省みられないと云ふやうなものになつても困る。

然しそうもなるまい、所屬組合に眞に糸聯を愛護する誠心があればそうはならない筈である。

郡下何れも供繭不足
此大波を乘切る組合が勝

組合製糸研究主筆　原田島村

本郡下の組合製糸は釜數五千釜、郡內產繭額の八割五分が供繭と云ふ有樣でこれ程組合製糸の發達した地方は縣下でなく、縣外にない位だから日本全國にもなく、誠に世界第一と云つて差支へありません。

大体から云へば取れた繭は全部組合へ供繭になつて居ると云つてもいゝ程である、それ程組合が發達して居るので今度のやうに糸價暴落で產繭が減ると手一杯に設備をして居たゞけに供繭不足となり經營に困難を來す事となるのであります。

實に本郡組合製糸界の當面の重大問題は如何にして此供繭不足を補うかゞ問題であります。

繭が高ければ繭の產額は增加し安ければ減少するものです、肥料も思ふやうには施せず、買桑や雇手間の養蠶では絕對に引き合はないので各自が控目にしたり荒廢桑園は差當り水田にしたりで例へば糸價が幾分引返すとしても玆一二年は著しく繭の產額が減ると覺悟せねばなりません。

そこで一番打擊を受けるのほ全額供繭の組合で、村中の繭全部を集めそれに當てはまる經營の大きさを極めてゐるものが產繭が少くなれば買入れる譯には行かず、それだけ原料不足に陷る譯です。

◇

原料が少くなればそれだけ釜を減らせばいゝやうなものだが、それには從業員の失業問題がついて廻り、一旦固定資金をそれ相當に投じて組合のまかないの大きくなつて居るものを急に釜數や事業日數を減らしても維持費と云ふものは減らず、損だと云ふ結果になるものであります。

◇

そこで出來るだけ供繭充實策を講じて既設の設備を休ませないやうに運轉することを考へねばなりません。御組合のやうなシツカリした組合では供繭不履行の心配はないのでありますが、制限供繭のものは速かに全額供繭とし區域內に未加入者があるならば共々に加入をすゝめ、村から兎に角他へ繭が流れ出ないやうにするのが第一の方法であります。近頃不良組合で自分は供繭が集まらず、たとへ集めて繰糸をしても滿足な配分の出來ないやうな組合の委托繰糸を有力組合が引受けたら兩者共有利であらう、との說が中央部あたりで論じられて居ます。これ等の方法も實現するとせば第二の供繭充實策であります。

第三には組合員各自の生產量をなるべく減少させないと云ふ最も積極的な方法であります、前にも申した通り此際金肥を多くしたり、人夫を增したり耕作反別を增加すると云ふ事は困難であり、やつても損な事ですが、各自の苦心研究により、自給肥料の改良、桑の肥培管理、育蠶技術の改善等により現在の桑園反別から金を掛ず好景氣時代の收獲量を維持すると云ふことも全然不可能ではなからうと思はれます。

◇

本郡の營業製糸は殆ど駄目と云ふ時期が近づきました、玆で郡下養蠶家が一二年努力すれば全く天下に誇り得べき組合製糸鄕が實現します。それには、供繭を減らさぬ事と、統一した良繭を出すことの二途が最も大切であります

各村に產組
青年會

各村の產業組合が羽根たゝきをして產業組合青年會を設立する氣運になつた。實際生活である組合經營はオヤヂ達の仕事で、青年達は先き走つた思想運動か、浮薄なモダンボーイと云ふやうでは村の前途組合の前途が案じられるのだ、青年が組合運動に關心を持ち目醒めて來たのは喜ぶべき傾向で、それだけ青年の思想も着實穩健となつたし、組合の側から云ふと、それだけ組合の指導原理なるものも生ぬるいものから脫し進展して來たのである。

供繭過多の組合は損をした

然し柳の下にいつもドゼウは居ない

どこの組合も夏挽中の生糸の賣上平均は七百圓近くへ行つて居たのだが三四月になつて五百圓近い値段で賣つたので、賣平均がグツと引き下げられたつまり供繭豐富でいつまでも糸を挽いて居たところ程鹿馬を見たと云ふ結果になつた斯う云ふことは數年來續いて居るが、漸落歩調の時では春挽より、次の夏挽が安く、夏挽より翌年の春挽が又安くなる道理で、漸騰歩調の時はこの反對の結果になるのである。本年度の例で云へば夏挽が全然ないか極少かつたところは三四月の暴落に出逢はなかつたから配分率が存外よくなる勘定であるが實際は一ケ年を通じた事業分量が少なければどうしても工費が多くなるので、澤山仕事をして居て相場に打たれた組合に比較して大していゝ配分が出來ないと云ふ結果になるのである。

將來も必ず春挽の糸値が安いと極つてしまつたものではなし、どうしても供繭が豐富でないと組合經營は思はしく行かないのである。

製糸業の免許制度

こう糸が安くては蠶糸業者が困り、それにつれて日本の國家貿易も困ると云ふので、一面には政黨の人氣取りや一部には眞に國家蠶糸業を憂へるもの又一部には大製糸家が自己の便利を計るため等の立ち場から様々な蠶糸業國策なるものが立てられて居る。

▲滯貨生糸の處分　その一つとして蠶糸界の癌と云はれて居る、保償糸十五萬梱が罐詰めのまゝ何時までもあつては市場を壓迫するから速かに處分せねばならぬと、今度米國の大商人ヂヤアリーに四百五十圓で見切つて買つて貰う話を進めた、これで癌が取れたかと云へば、横濱の倉庫にあつた荷物が米國に移ると云ふだけで餘り期待は出來ない。

▲二百釜以上の免許制　糸價がぐらぐらしたり賣り崩したりずるのは製糸家が弱少だから相當資本があり二百釜以上設備のあるものでなければ認可しないやうにするとの案が立てられて居る製糸家が有力になれば蠶糸業が安定する譯だが、さてそうなつて養蠶家の生繭販賣が有利になるかどうかは豫斷を許さない、事によれば却つてくゝられるやうな結果になるかも知れない。

▲販賣統制機關を一億或は五千萬圓の資本で作り今の賣込問屋を全部買收してしまつてやつたら宜からうとの案も立てかけて居る。

以上のやうに色々な方面から全國蠶糸業の統制と云ふ事が頻りに論じられて居る。然し養蠶家と製糸家では時に利害が反する、是等のものが眞に一身同體になつてうまく統制されて行くものは組合製糸より外にないことが痛感される。

日本の蠶糸業を眞に生かすものは組合製糸である

全國蠶種業組合聯合會主事　野崎清（氏談）

野崎氏は郡是の蠶事課を勤めた人で頭もよく辯も良い、此間飯田町の講演會で五時間ぶつ通しにまくし立てた。そのうちから要點二三を拾い上げて見る。

製糸業は一体機械工業ではない。一寸見ると機械らしく見へるだけの事で其實は手先の工業、原始工業である、たゞ機械が幾分補助をすると云ふだけの事である。

こゝに製糸業の特殊性があるので原料統一、職工の訓練等が重要視される此點に早く着眼し、この方面を開拓した製糸家が今日成功して居る、組合製糸も原料改善にもつと力を注がねば駄目だ。

×

組合製糸は營利ではない營利なれば儲けたとて悪く云ふ處はないし儲ける半面には損もついて廻る、組合製糸は自己の生産したものを販賣し生活を立てる消費經濟の延長であるから儲けのない代りに損をすべきものでもない、損が行くと云ふ場合には堂々と政府などに對し援助を求めても差支へないのである。

然し組織の性質は全然違つて居るが經營と云ふ點では營業製糸でも組合製糸でも同一である。

×

蠶糸業の統制はバラ〳〵だ、これをうまくやらうと今度蠶糸業組合法が制定されたがさてうまく行くかどうか、全國聯合會が蠶種、養蠶、製糸、組合製糸、問屋、輸出と六ツあつてその上に中央會があると云ふ仕組だが今からこの六團體がいがみ合をして居る始末でとてもうまくは行くまい。

此點で組合製糸程、元から先まで一貫した有機的なうまいやり方はない。役人共は組合製糸に對する理解が殆どないから呆れてしまう。

×

信州は養蠶の先進國だが徒らに量ばかり多くても反當りの收穫、繭の質等ではズツと遅れて居る、大体養蠶業は自家勞力を生かす集約農業だから、これではそろばんが持てない、言はれて癪なら夏秋蠶に支歐の一二化を立派に飼つて見るがいゝ、後進國ではこの仕事を立派にやり遂げて居る。

規格統一

第二年

一昨年の暮から昨年の春にかけて「原料繭規格統一」と云ふ言葉が盛に行はれ組合製糸の中心問題になつて居た然るに今年はこの言葉が去年程八釜敷く云はれないから、あれは大方ハヤリもので風のやうに通り過ぎてしまつたと思つたら大間違いだ。

原料規格統一の大切さは昔も將來も變るところがない、昨年は全郡的に漸くこの問題をマジメに考へ第一歩をふみ出した年で、本年あたりからみつちり實行に入りつゝあるのである。繭が安いからとヤケを起さず、安いからこそ最善を盡さねばならぬ。

本年郡下の配分率

昨年度（昭和六年）郡下配分率の平均は二十八掛一分五厘であつたが本年の方が生糸販賣平均値が前年より遙かに低いので本年度の配分率は前年より少くとも平均に於いて二掛は少くなるだらうと云はれて居る。すると二十六掛内外が本年の平均と云ふ事になるのであるが各組合の成績によりこの平均よりも上下に二三掛の開きが出來て來る奬勵金の附け方や、剩餘金の取り方、黄白繭の多少等により配分率も一掛や二掛迄は違うものだからこの配分率だけでその組合の成績を判斷することは出來ず、要は生繭一貫目當りの收入の多い程、眞の成績がよかつたと云ふ事になるのである。どうか當組合も全員の努力により郡下組合の水準線より落ち込むやうな事のないやうにしたいものである。

稚蠶共同飼育

今では蠶種の共同催青は小組合單位で殆ど完全に行はれる様になつた、次は稚蠶共同飼育まで進まねばならぬと云ふのが大勢である合理的な管理が出來る外に人工や經費の節減が出來て經濟的に有利だと云ふところまで進むべきもので、組合製糸にあつては原料の規格統一上にも益がある。

今から共同稚蠶桑園の目論見を立てゝ行く〳〵は小組合で稚蠶共同飼育をうまくやるところまで進み度いものである。

家庭欄

高い品物程安く出來る

組合員主婦に告ぐ

皆さん、面白い話があるからお聞き下さい、皆さんの買う品物では高價なもの程、原料や手間代が多くかゝる、つまり原價が高いから高く賣ると云ふことになつて居ます。それがあたりまへの事だのに私等が組合で作つて賣る生糸だけはこの反對に高く賣れる上等の生糸程原價が安く出來、品が悪くて安くなければ賣れないやうなもの程工費が多くかゝるのです。

なぜそうなるかは皆様も少しお考へになれば判ることゝ思いますが、例へば繭がよく、立ちもよく、一日に二斗も挽けるやうなものからは糸素性のいゝ上等の生糸が出來ます。今度は日に一斗挽いて居ても、三度の食事や工女衆の賃錢は餘りかはりませんから、二斗挽ける繭の二倍工費がかゝる譯です、その繭から出來た生糸はフシも多く、ムラも多く安くなければ賣れないのでこゝに製糸業の面白さがあります、原料改善の大切さがあります、どうか皆さん心を合せて良い揃つた繭をお取り下さい。安い糸に多くの工費を掛けるか、高い糸を安く仕上げるか、配分のところへ行くとデカい違いになります

組合員になるなら女房は出て行く

これは昔の話、今では組合員でなければ嫁にやれない

これは今から廿五年も前に、上伊那殿島に起つた話である。その頃の養蠶家は繭を取つても製糸家に延金で買はれお百度參りした末に倒されると云ふ有様で、繭の販賣には一通りならぬ心配をした。或年は工女の食う米がないと云ふので米まで貸して倒された、人のいゝお百姓もこれでは我慢が出來ない繭をタダやつて米までつけてやる位なら自分で工場を立てゝ糸にして賣れば幾らなり確實に金がはいる、他人の繭は決して買はぬとすれば營業の損もない筈だと仲間で製糸工場を立てた、これが今の組合製糸のはじまりである。

ところが妻君達は製糸でコリ〳〵して居るので製糸なんかく手を出すやうなら「わしやあお暇を貰う」と出た、無理もない事である。今では組合製糸が安定し繭が取れても賣る心配は更にない。娘を嫁にやるにも組合員になつて居ないやうなヘンクツもの〻所へはやれないと云ふ程になつた。二十年前のことを思ふと涙の流れる笑い話である

ウコクワグ

イアミク

オイ、ミンナアツマレ、クミアイノオハナシヨスル

第二課　出　資　金

●村ノクミアナハ誰ノモノダカ、ダレガオ金ヲ出シタノダカ知ツテヰマスカ。

○知ツトル、ソレハナカマノモノダ、オ父サンタチガオ金ヲ出シタンダニ

●ソーダ、ミンナナカマデ作ツタノデス、ソノナカマノ事ヲ組合員ト云イマス、ミナサンハ組合員ノ家族デスダカラミナサンモナカマダト云ウコトガ出來マス。

●組合員ガ出資金ヲシテ組合ガ出來タソコデ組合員ガ繭ヲ持ツテ行カン、又組合ノユウ事ヲキカントシタラドウナリマス。

○ツブレテシマウ。

●ソウデス、組合ハ出資金ダケデハヤツテユケマセン。組合員ノ共同一致ガ大切デス、組合ヲ大切ニ思フ心ハ目ニ見ヘヌ出資金デス。ミナサンハ組合ヲドウシマスカ。

○ダイジニシテ、サカエルヤウニスル。

他山の石

◇山本組合　では信用部の貸附を春蠶上りに利子を入れる事として五年十年賦に書に替へ、條件に全額供繭を附し原料充實に備へた。

◇扶桑組合　組合員が無謀の掃立を抑制し桑不足に備へるため、此際の手控へ蠶種一枚を二十錢で組合が買い取る事とした。

◇信三組合　昨年のやうな原料不足を繰返して居ては解散の外なく全額供繭の契約で今年の事業を始める事になつた、不履行者は除名處分貸金取立てと云ふ事になるのである

◇上郷組合　桑園から育蠶、繰糸まで各個人別、小組合別にスツかり基本調査が出來劣等なものを水準まで引上げる特別指導をして今年は工費三割減の意氣込み。

◇下久堅組合　郡下で只一つ保證責任となる、有限責任なら出資だけまかり間違へば飛ばせればいゝのだがこれは保證額までは追求されるそれだけ對外的の信用も向上し組合員の責任が重くなるのがこの立て前

◇當組合では　組合直營の桑園で改良栽培の手本か示し第一の桑生産費をグツと引き下げる方法を研究中

◇上伊那組合　では出資一口につき調合肥料一袋と云ふやうな配分をしたが思いつきのやり方である。

組合運動と青年の支持

資金も産業も、其外人材も施設も何も彼も都市に集中し農村に殘されたものは重き負擔と、生活必需品工業原料の安價なる供給である。これでは農村が立ち行かれる。組合は村の資金を村へ踏み止まらしめる、製糸事業は少からぬ仕事を村へ與へる。

産業組合は資本主義經濟に伴ふ都市集中に對し地方分散の最も著しいものである。變なことを言つて廻ればシバられる位のところが落である。それよりは最も確實性のある平和的穩健的な方法により社會改良に心掛けるのでなくてはならない。

然もそれは産業組合を措ては他に手段方法がないのである。純眞なる青年層の意氣と情熱とが注がれて初めて組合運動の活潑な行動が開始される。

編輯後記

○時報第三號を御手元へ送る。愈々蠶戦のシーズンとなつた。

○世が世なら今頃は養蠶家が大いに意氣込んで居るのだが、この糸値では溜息をもらさゞるを得ん。

○然し蠶だけは上手に飼つて出なければ違蠶したら裸てバラと云ふ事になる。

○茲に積極政策と云ふのがある。うんと生産費を安くして、二三圓の繭でもどうとか採算の合うやうにし、副業地の養蠶があきれて縮少するまで辛棒し抜くと云ふ事である。

○外に仕事はなしそれで行くより仕方がないのである。

○上簇前に時報の次號を配付するつもりでは居る、その際注意事項は申上げるが今年もしつかり上簇改善を勵行されるやう豫めお願いして置く。